



確かな学力の向上をめざして【12月】

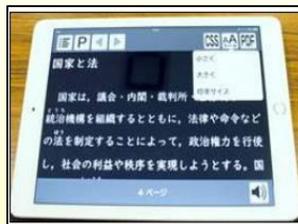
■特別支援教育におけるICT活用について

障がいのある子どもは、障がいの状態や特性に伴う学びにくさを抱えています。多様かつ個人差が大きい学びにくさの解消に向けて、ICTを効果的に活用し、学びの可能性を広げましょう。

ICTを活用した取組例

障がいのある子どもに、個別に必要なかつ適切な環境の調整および変更（合理的配慮）を認め、ICTを活用することで、通常の教室での学びに参加することが可能になります。

見え方に困難のある子どもに対して タブレット端末の基本機能の活用



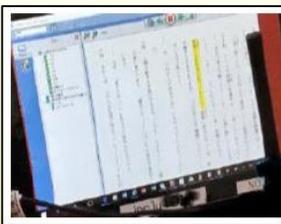
タブレットの拡大機能、白黒反転機能等により、自分にとって見えやすい状況を実現できる。



タブレットのカメラ機能により、板書事項、小さいもの、動いているもの等を撮影し、手元でじっくり確認・観察できる。

読み書きに困難のある子どもに対して

読み上げ機能や書き込み機能の活用



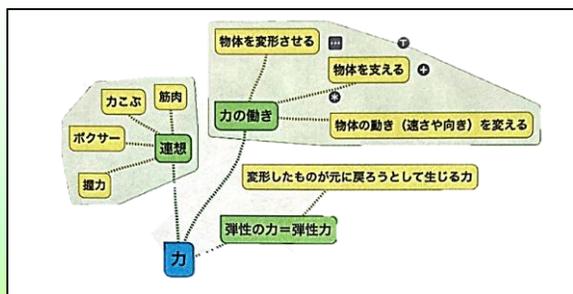
デジタル教科書等の活用により、ルビ表示や読み上げ機能を利用し、読む負担を軽減し、内容理解の支援ができる。



音声または文字入力の方法により、漢字学習等の方法を工夫できる。書き込み機能を利用し書く負担を軽減し、表出の支援ができる。

思考ツールの活用

中部地区のある中学校では、マインドマップアプリを用いて生徒の思考を整理したり広げたりする授業を行っています。思考内容を可視化することによって、記憶を整理したり発想しやすくなったりします。頭の中だけで物事を整理することが苦手な子どもに対して有効です。



図：中学校理科 重要語句のまとめ

Point

子どもたち自らが自分に合った学び方を身につけることは、将来にわたって主体的に学ぶ力となります。また、GIGAスクール構想により整備される「1人1台端末」により、「誰一人取り残すことのない個別最適化された学び」の実現に向けたICT活用が可能になります。

子どもたちの可能性を広げるために、ICTの効果的な活用を検討しましょう。



文部科学省「各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する参考資料『特別支援教育におけるICTの活用について』」令和2年9月

